

2022年度弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター特別展

岩木山麓の考古学

2022年10.15(土) ▶ 11.6(日)

開館時間10:00~16:00

入場無料 期間中無休 10月28~30日のみ休館



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期ならびに開館時間に変更になる場合がございます。開館状況等は、ホームページにてお知らせしておりますので、ご確認をお願いします。

<https://human.hirosaki-u.ac.jp/kitanihon/>
北日本考古学研究センターHP



■ 会場 / 弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター展示室
(総合教育棟2階)

〒036-8560青森県弘前市文京町1番地 Tel.0172-39-3190

■ 主催 / 弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター

■ 共催 / 弘前市教育委員会・つがる市教育委員会



岩木山麓の考古学

岩木山は津軽平野南部にそびえる標高1625mの独立峰・活火山であり、秀麗な山容は津軽平野一円だけでなく、遠く松前から眺められます。この象徴的な山が位置する岩木山麓では、縄文時代の遺跡が多数見つかり、山麓には後期の十腰内遺跡や晩期の環状列石が見つかった大森勝山遺跡があります。弥生時代になると東北で最北最古の水田跡が見つかった砂沢遺跡やイネの北限を更新した清水森西遺跡があり、初めて弥生時代に水稲農耕が展開した地域の一つになります。古代以降も岩木山信仰の中心地として発展し、岩木山麓から発する豊富な湧水によって農業基盤が整えられていきました。津軽(大浦)氏にとっても岩木山は特別な山であり、弘前市五代・賀田にある大浦城は、岩木山を挟んで反対側の鱒ヶ沢町種里城とともに、津軽統一の拠点となりました。

明治期以降、十腰内遺跡や岩木山神社など考古学・歴史学の対象となった地でもあり、戦後、昭和30(1955)年頃計画された岩木山麓の大規模開発に先立ち、昭和34~36(1959~1961)年に発掘調査が行われました。この調査は、弘前市主体の発掘調査の先駆けでもあり、弘前市と弘前大学が共同で行った官学連携調査の始まりにもなります。岩木山麓を背景とした調査は脈々と受け継がれており、近年では湯の沢遺跡で弥生時代前期の集落跡が発掘されています。そこで、調査成果を速報するとともに、考古資料を通時的に展示することで、この地域の日本史上における意味を概説します。本企画展は、これまで非公開だった貴重な資料をふくめ、現在までに得ている成果を一般に公開するとともに、本学の教育、研究について理解を深めます。

主な展示資料と遺跡

弘前大学所蔵資料

十腰内遺跡、砂沢遺跡(弥生前期)、湯の沢遺跡(弥生前期)、清水森西遺跡(弥生中期)

弘前大学所蔵成田コレクションのうち

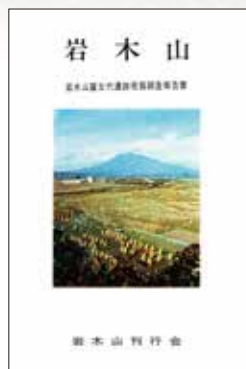
岩木山麓出土土器・石器・陶磁器、佐藤部画譜、中村良之進板碑調査・郷土誌関係資料

弘前市教育委員会所蔵資料

『岩木山』調査時写真・資料、十腰内遺跡、薬師遺跡(縄文晩期)、大森勝山遺跡(縄文晩期)、砂沢遺跡、独鈷・堤田遺跡(古代)、笹森館遺跡(古代)、荒神山遺跡(中世)、大浦城址(中世)

つがる市教育委員会所蔵資料

石神遺跡(縄文前・中期)



成田彦栄氏考古資料収蔵展示室

特別公開



弘前大学文京町地区キャンパスまでのアクセス

- JR弘前駅から
- 徒歩の場合：約20分
- タクシーを利用する場合：約5分
- バスを利用する場合
- JR弘前駅前(中央口)【3番のりば】
- 「小栗山・狼森線」または「学園町線」に乗り、【弘前大学前】

